



飯南町社会福祉協議会 地域福祉課長 生活支援コーディネーター 吾郷由美子さん

生活支援と言うと少しかたく感じますが、平たくいうと「ゆるやかな見守り」とも言えるかもしれません。昔は自然に地域にあったものだと思いますが、社会保障の充実に伴い、薄れてきたと思います。便利になればなるほど、助け合わなくても生活できてしまいますから。例えば、認知症になり、デイサービス等を利用し始めたり、病気で入院してしばらく地域から離れてしまったりすると、地域の人と少し距離ができてしまうかもしれません。確かに、医療や介護福祉サービスだけを頼りに、その後も自宅で生活できるかもしれませんが、やっぱり、本人にとっても地域とのつながりがあったほうが、生活や人生が豊かになるはず。専門的な支援が必要な人こそ、地域の力も必要です。

ただ、見守りと聞くと見張られていると感じる人もおられると思います。なので、見守られることが負担にならないように、見守りが詮索にならないように気をつけたいといけません。だから、「ゆるやかな見守り」となります。1から10まで地域で知っていなくても、専門職が知っていれば十分なこともあります。でも、地域のことを気に掛けておかないといけないということは、皆さんに忘れないでいてほしいです。また、普段からの見守りは、災害の時にも生きてきます。災害という非常時であっても生活は続きますし、より一層助け合いが必要となります。この仕組みが、地域の中に自然にあれば、災害にも素早く対応できるはずなんです。



友愛訪問活動で、配食サービスのお弁当を届ける松浦重富さん

見守りから始める

図2 65歳(または75歳,85歳)以上の世帯員がいる世帯の家族構成

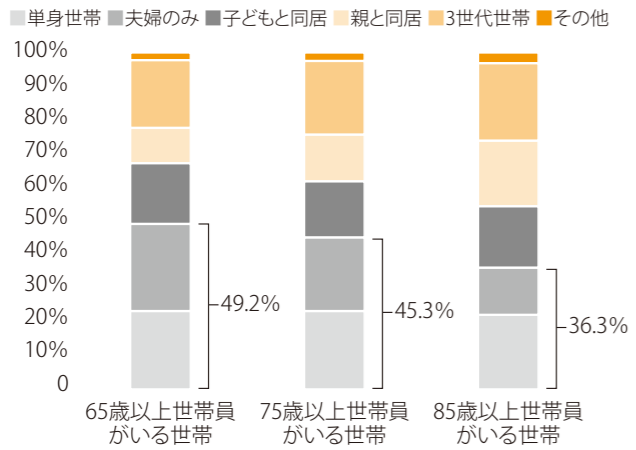
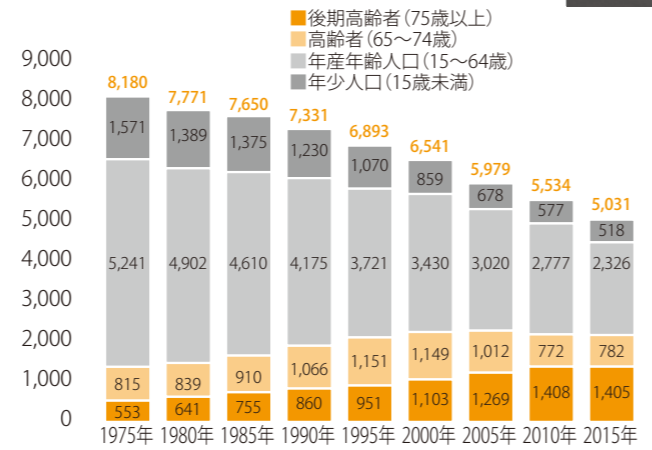


図1 飯南町の人口の推移



平成29年4月に、町社会福祉協議会と役場保健福祉課に「生活支援コーディネーター」を配置しました。生活支援コーディネーターの主たる役割は、地域の支え合いの推進。地域に不足している介護予防や生活支援のサービスを把握、地域の関係団体等への働きかけや情報共有、連携体制を構築し、サービスの担い手の発掘や養成、地域のマッチングなどを進めています。

都市部のように、高齢者の人数自体が増える場合は、介護施設や福祉施設を増やす方法も考えられます。一方、本町では、2030年の65歳以上人口は、約1800人まで減少する見込みで、現在の施設定員に余裕が発生すると思われる。そのため、施設を増やすという選択でなく、在宅での生活を支援するということが重要になっていきます。しかし、介護保険制度では、サービスの対象となる支援内容が法律で決められていて、身の回りのちょっとした簡単なことは、サービスの対象となりません。そこで、町では、高齢者の在宅生活を地域全体で支える体制づくりを進めています。

人口減少、少子高齢化、便利になる世の中。薄れゆく人間関係、地域のつながり。その昔、地域の中にあつた助け合いは、いつしか、行政サービスや介護福祉サービスに置き換わっていました。そんな中、元々地域にあつた助け合い、見守りの機能を取り戻そうという動きがあります。今月のキーワードは、「ゆるやかな見守り」。

3割の世帯が65歳以上の高齢者だけで生活
介護保険制度が始まった平成12年、飯南町の65歳以上の人口は2252人、高齢化率は34.4%でした。15年後、平成27年には、65歳以上の人口は2187人で微減。しかし、75歳以上の人口は1408人に増加、15歳~64歳の人口は1104人減少し2326人に。高齢化率は9.1%上昇し43.5%となりました(図1)。そして、65歳以上の単身世帯は298世帯、夫婦とも65歳以上の高齢夫婦世帯は284世帯で、合わせると582世帯となり、全世帯の3割以上を占めています。(数値は国勢調査)

また、65歳以上の世帯員がいる世帯の世帯構成を見ても、単身世帯または夫婦世帯の割合は49%、75歳以上では45%、85歳以上では36%となっています。(図2)

地域が生活を支える
この事実を、日常生活で考える大きな問題が見えてきます。例えば、蛍光灯の交換や買い物、回覧板、ゴミ出し。以前は、家には若い夫婦や子どもがいて、日々の生活の中のちょっとした困りごとは、家族の誰かが手伝えば解決していました。しかし、高齢者だけの世帯では、基本的には自分たちでなんとかするのはなりません。小さな困りごとだったことが、大きな困りごとになってしまいます。